

1914年にラーマ6世は『東洋のユダヤ商人』を著わして反華商の民族主義の建前を唱えたが、王室財政の赤字を救った92名の華商に貴族称号を与えるという本音との両面を使いわけた。華商は1908年中華総商会、華商銀行、翌年米商公会を創設して伝統的な秘密結社中心のアヘン等の徴税請負い業から脱脚し、中華民国の成立、第一次大戦の米、錫、ゴムのブームに便乗して精米、輸出、船舶、保険、金融の諸業種へ多角経営に乗出した。10年代には政官界の銀行預金が普及し、また新エリート層も育った。平民の学校教育が進み、中には王室奨学生や陸海軍や法務省の派遣生となって留学し、欧米の異文明を体験して帰国後に立憲革命の担い手となる者が現われた。

深 見 純 生

戦時中の国民信条や外国人就業制限令等の国民精神運動の建前と政官界進出の高給武官や華人系実業家による公営軍事企業の高給癒着の本音とが表裏一体となって並存し、やがて戦後の在郷軍人会と華人系銀行のシンジケートへと展開する。プレミアム大將が率いる現政権が抱えている悩みも軍人政治家と華人系財界人が官僚の金と力を握っている実態と政党政治の理想との力の均衡の問題であり、それは今も昔も変わらないタイ官僚の社会的背景を物語っている。

①官吏になるトレーニングはニュウイタ（屋敷奉公、行儀見習）とマガン（無給の見習、待業期間）から学校教育に変わり、ブパティは「ジャワの支配者」から、大学レベルの学歴が要求される高学歴化した、オランダ

化した官吏になっていった。

②しかしブパティは同時に volkshoofd (人民の首長) であり続けることがオランダによって強制され、ブパティ位世襲原則が保持された。

③オランダは、人民はブパティに忠誠であり、ブパティはオランダに忠誠であるという二重の虚構の上に立って、遅れたインドネシアの発展という植民地支配正当化原理の実践においてブパティに要の位置を与えた。

④したがって、独立を主張し、volksleider (人民の指導者) を自称する民族主義者に対

しては、ブパティは単なる官吏ではなく、いわば political chief であることを強いられた。

⑤他方、権力機構内部における彼らの比重は、脱後見政策などオランダの言う自治政策にもかかわらず、低下し、彼らはオランダへの従属を深めた。

⑥とは言え、原住民官吏は突出した高学歴集団であり、また、本質的内容に欠けるものであったとしても、行政と議会という近代国家の運営の方法に通じている唯一の集団であった。

《自由研究発表》

バリ島のテンガナン — その儀礼的空間

小 川 都 弘

先回の報告 (『形態と象徴』—バリ島における集落プランの研究、於慶大) においてテンガナンの Woondorf プランについての言及は充分ではなかった。本発表では通説をふまえつつ、現段階であきらかにしえた諸点について報告した。

【資料】現地調査データおよび Korn, V, E (1932)・Udayana 大 (1973) による民族誌的研究の成果

【分析結果の概要】① Tenganan Pegring-singan 慣習村 (Bali 島東部) 域内に他村の飛地・共用地あり。Woondorf は Pandek 川左岸の段丘上にあり、Pasedahan 村との村境に接する。本村は Mangis 郡内外の諸集落との間で複雑な寺院システムを形成する。祭祀センターである Bale Agung に関しては、近隣の三ヶ村 (Pekarangan・Kastela・Ngis) にまたがる勢力圏をもっている。以上の事から本村の孤立性を主張することは失当といえよう。

②慣習村の村落祭祀は Sanghyang 階層に属する Mangku を中心に営なまれているが、月例祭 Upacara Sasih の中には外来系住民 Wong Angendog (Pandes・Pasek・Bendesa 階層) と観念された Pande (不在)、Bendesa が司祭をつとめるもの (11・12 月例祭) がある。世俗的な面では Pasek (Ngis 村出身者に限られる) が Mangku と並び 慣

習村における村役の主席にランクづけられている。

③かかる異文合体の様相は Woondorf の形態にも顕現している。すなわち、これを構成する三つの Banjar のうち、二つは慣習村民の居住区、残る一つは Br. Pande と呼ばれ、慣習法に違反した村民の追放ないし避難所として機能する区域である。後者には慣習村外からの来住も可能であるが、その場合、戸数に制限が加えられる。この Banjar のメンバーの中には村役の末席 (Nande Mangku & Nande Ubuk) を付与され慣習村用達の生活物資等の製作・供給を行なってきた。Br. Kauh・Br. Tengah の居住者は自己を "Asli (先住民、土着民) と規定している。これは観念としてのみ重視されるが、ただちに史実を反映したものとは解釈しがたい。

④ Woondorf は 530m × 205m の規模で、Kaja-Kelod 方向に長軸をもつ長方形をなす。内装された三つの Banjar は類似の構えをもっている。かなり高度な土地条件評価・測量および土地造成技術に裏打ちされたものである。ドミナントな宅地割は存在せず、屋敷列はほぼ間口 10m × 奥行 17m 程度に等分されている。

⑤ Br. Pande の宅地内における分棟配置と建築の様式は他の二つの Banjar とは若干こととなっている。Banjar を構成する三分画